

八月の半ばの休みは、お盆休みです。普段は故郷を離れて遠くで暮らす方たちにとっては、久しぶりに実家の親戚や故郷の友達との懐かしい再会の機会を楽しみにされている方も多いかと思えます。

お正月やお盆に故郷に帰る習慣が出来たことには、諸説ありますが、その中に藪に入ると書く、^{やぶい}「藪入り」と呼ばれるものがあります。

江戸時代には旧暦の一月十五日と七月十五日とを藪入りと呼びました。藪入りは、当時、住み込みで働きに来ている奉公人が実家に帰る休日、年に二度訪れる貴重な休暇の期間です。子供の頃に故郷を離れた者にとっては、特別な日であったことでしょう。

旧暦七月の藪入りを、後の藪入、また秋の藪入と呼びます。明日はいよいよ藪入を迎えるというその前の晩には、故郷に帰るほうはすっかり明日の支度を枕元に用意し、一方、故郷の実家では、子供の喜ぶことをあれやこれやと考える。互いに夜が明けるのを楽しみにしている様子は、落語の「藪入り」の中で、耳にされた方も多いのではないのでしょうか。

八月に懐かしい故郷に帰るのは、都会で働く人ばかりではありません。お盆には私たち家族の命、なにより自分の命をつないでくださったご先祖様も帰っていらっしゃると言われています。年に一度家に訪れて下さるご先祖様もまた、私たちとの再会を楽しみにされていることでしょう。

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

そして、お迎えする家族も、身内の者が集まって、一年ぶりに家に戻ってくるご先祖様やご家族との再会を楽しみにしています。たくさんの土産話も用意して、お盆の準備に余念のないことと思います。

今年の夏は、故郷ではなく自宅で過ごす方もあるかもしれません。新型コロナウイルスの影響がなければ、故郷に帰り自分の命をつないでくださったご先祖様、そして家族の皆様と直接お目にかかって、様々なお話をして頂きたいものですが、故郷まで戻れなくても、実家への連絡方法は多様にあります。お盆の時期、それぞれに合った方法を探しながら、ご先祖様や家族と一緒に過ごしてみるの、いかがでしょうか。

— 終 —